

鬼とは何？ を調べてみたら、

「そんなことしたら、鬼が来る！」 「言う事聞かないと鬼が出る！」

そんな事を言われた経験はないだろうか？、節分にも「鬼は外！」、「福は内！」

桃太郎が「鬼退治に行く」、鬼退治って、鬼と言うものが悪い事をしていけば退治も良いが、わざわざ、鬼ヶ島と言うところで生活をしているだろう「鬼」を退治する、・・・

鬼って何をしたのだろうか？

鬼とは

鬼は、恐ろしいもの、力強いもの、超人的なものの象徴とされています。人に危害を加えたり、人を食べたりするなど「悪」の存在であることが多いのです。

本来、鬼は「死者の霊」であるという考え方です。言い換えれば、人間が鬼になる、人の死去を「鬼籍に入る（きせきにいる）」という表れで、鬼を祖霊や神と結びつけるようにもなりました。

「おに」という言葉は、姿が見えないこの世のものではないものを意味する「隠（おぬ）」が転じた、「陰（おん）」が転じた、などの説があります。

「鬼」（おに／キ）という漢字は死体の象形文字で、人は死んだら鬼になると考えられ、大きな頭の形がこの世の人とは異なることを示しています。中国から日本に伝わると、死に対する恐怖から鬼は恐ろしくて怖いものと捉えられていったようです。

1 近代の物語「桃太郎」のあらすじ

ある村に老夫婦が住んでいた。

※時期や場所を特定せず「ある村」、「昔むかし」、「あるところ」という曖昧表現

ある日お爺さんは柴刈り（薪集め）、お婆さんは洗濯へと出かけた。

お婆さんは川から流れてきたとても大きな桃を拾い、手土産に家へと持って帰る。

その桃を割ってみると、なんと中から元気な男の赤ん坊が出てきたのだった。

※誕生秘話

二人はこの子を『桃太郎』と名付けて大層可愛がって育て、桃太郎も数年たたずにあっという間にたくましい少年へと成長していった。

その頃、村に頻繁に鬼が出入りして村を荒らしまわっており、このことに憤った桃太郎は、鬼退治を決心し、彼らの根城である「鬼ヶ島」へと旅立つことにした。

※成長と正義感（数年でたくましい少年？ 正義のヒーローとしての旅

それを聞いた老夫婦は、桃太郎のために武器や衣装を用意し、またお婆さんはきびだんごを持たせてくれ、

※衣装はいいけど武器って何か？ 弁当は黍団子だけ、遠くでは無いな

鬼ヶ島に向かう道中、犬・猿・雉と出会い、きびだんごを与えてお供につける。

※賄賂で犬と猿と雉を味方につけた

そして鬼ヶ島にて鬼たちと激闘を繰り広げ、

※鬼たち、とは複数の鬼が存在する

見事勝利して彼らを改心させた。

※息の根をとめずに勝利で「改心」させた、何を持って激闘して勝利した

彼らから反省の印として荷車いっぱいの財宝を渡され、

※荷車いっぱいの財宝は窃盗や略奪で集めたと予想すればどの様に処理するのか

桃太郎は無事に村に帰って幸せに暮らしたという。

※犬、猿、雉はその後どうしたのか？ 財宝をどうしたのか？

※「本当は鬼が島に押しかけた桃太郎らが悪者ではないか」と考える者はおり、裁判所等で行わ

れる模擬裁判の事例やディベートの議題として取り上げられる場合がある。

※鬼ヶ島と言う場所に金銀や財宝を蓄えている富裕層を襲撃し略奪したものでないか説

桃太郎伝説

桃太郎は日本のおとぎ話であり、おとぎ話とは、日本独特の直接言わずに何かに言い換えて伝えると言うめんどくさいお話でもあり、直接的ではなく優しく伝えると言う事もありそうです。

お爺さんとお婆さんが登場し、桃太郎に黍団子を持たせて、犬、猿、雉を家来として鬼ヶ島の鬼を退治する。と言う大筋のストーリーです。

標準型のストーリー

桃から生まれた桃太郎は、老婆老翁に養われ、鬼ヶ島へ鬼退治に出征、道中遭遇するイヌ、サル、キジをきび団子を褒美に家来とし、鬼の財宝を持ち帰り、郷里に凱旋する。

登場する人物や物

鬼：鬼は、風水では丑と寅の間の方角（北東）である「鬼門」からやって来ると考えられていることから、敵役である鬼が牛のような角を生やし、虎の腰巻きを履いているのも、風水の思想によるという解釈もある。

鬼は複数と言う記載がある。

桃太郎は「鬼門」の鬼に対抗して、「裏鬼門」（南西）に位置する十二支（十二支は方角も表す）の動物（申（サル）、酉（トリ＝キジ）、戌（イヌ））を率いた、という解釈がある。

鬼ヶ島が大日本国の「東北（うしとら）」の方向にあるという説明が付加されているが、これも馬琴の「鬼が島鬼門説」に迎合したのではないかという見方がある。日清戦争の勃発時期であり、桃太郎を皇軍に、鬼を敵国の清朝中国に見立てたと思われる。

桃：桃が邪気をはらい不老不死の力を与える霊薬である果実とされている

「桃は大昔より数少ない果物であり、においや味、薬用性および花の美しさがそろい、紅い小さな花と豊潤な果実を付け、不老不死のイメージにぴったりである、人に利益を与え死の反対の生のシンボルを思わせ、特に桃の実が柔らかくみずみずしく産毛、筋目から命の源の女性器に似ている、邪悪な鬼を退散させる力を感じさせるからであろう」。

この桃と女性の生殖器についての考察は、西岡秀雄等が有名です。

桃そのものが女性であった解釈もある。おばあさんが拾ってきたのは、大きな桃ではなく若い娘であり（桃は若い娘の尻の象徴）、子供が出来ず悩んでいたおばあさんは、拾ってきた娘におじいさんの子供をはらませ、その娘から子供を取り上げた（=桃を割る）という。

お爺さん：山に薪拾いに行く

お婆さん：川に洗濯に行って、流れてくる大きな桃を拾って帰る

桃太郎：5-6歳の少年

犬：戌（イヌ）裏鬼門

猿：（申サル）裏鬼門

雉：酉（トリ＝キジ）裏鬼門

標準型

19世紀初頭を境に回春型から果生型が主流になってくる、誕生の不思議、時代と共に性に対する表現の違いでしょう。

誕生秘話

夫婦が神仏頼みで子を得た話が最も古い原型

>夫婦が若返り子をもうけた「回春型」

>桃から生まれた桃太郎「果生型」となる。

果生型：桃から生まれた、桃とは女性を指しています、桃です。

※女性を桃とたとえての説明は納得も行くものです。

回春型：桃を食べたお爺さんとお婆さんが若返り出産をする

お爺さんも若返らないと頑張れない、お婆さんも、せめて40代前半までは若返ろう。

※この、桃とは何を意味するのか、若返りのサプリメント的な食べ物なのか、はたまたお爺さんにとっては若返ったお婆さんの桃が、更に若返りの要因でしょう。

誕生（出産）の仕方

赤い箱と白い箱が流れてきて、赤い箱に赤ん坊が入っていた

赤い手箱と黒い手箱の場合

箱の中に桃が入っていた

※この部分では男女の産み分けについての表現です、赤と白、黒と白＝運命です

桃が2個流れてきて、ひとつを食した老夫婦は若返り、他方から桃太郎が生まれた説

※これは人間の本能丸出し、若返りと子供を共に授かる、欲張り型

桃の割れる経緯

「たんす」、「戸棚」、「臼」に入れておいた桃が自然に割れて男児が誕生する等

※妊娠後には「たんす」に入れて置く位に大事にしないで、そうすれば時間と共に自然出産します。と言う例えです。

成長

期待通りに働き者になった場合や力持ちで大きな体の怠け者で寝てばかりいる説がある

※きちっとしつけや教育がいかに大事かと言う事を説いている、育て方が大事です。

二人の生活

お爺さんが芝刈りに行くか草刈りに行くか、

色んな説

若返りした「媼（うば）」（老女・おうな）が桃太郎を出産する説

鬼から奪った財宝

桃太郎が持ち帰った財宝は、隠れ蓑、隠れ笠、打ち出の小槌、金銀、延命袋（第一系統、第二系統）などである。他には、金銀宝玉、やさんご（金銀珊瑚綾錦）がある。

唱歌

桃太郎（ここでも略奪している、「ぶんどり物」はいかん）

桃太郎さん、桃太郎さん、お腰につけた黍団子、一つわたしに下さいな。

やりましょう、やりましょう、これから鬼の征伐に、ついて行くならやりましょう。

行きましょう、行きましょう、貴方について何処までも、家来になって行きましょう。

そりや進め、そりや進め、一度に攻めて攻めやぶり、つぶしてしまへ、鬼が島。

おもしろい、おもしろい、のこらず鬼を攻めふせて、分捕物をえんやらや。

万万歳、万万歳、お伴の犬や猿雉子は、勇んで車をえんやらや。

モモタロウ（ここでも略奪している、「とったたから」、もダメだね）

桃から生れた桃太郎、氣はやさしくて力持、鬼ヶ島をばうたんとして、

勇んで家を出かけたり。

日本一の黍団子、情けにつきくる犬と猿、雉ももらうてお供する、急げ者どもおくるなよ。

激しいいくさに大勝利、鬼ヶ島をば攻め伏せて、取った寶は何々ぞ、金銀、珊瑚、綾錦。

車に積んだ寶もの、犬が牽き出すえんやらや、猿があと押すえんやらや、

雉がつな引くえんやらや。

地域別の口承伝説

- ・岡山県を中心とした地域には、**横着な性格と大力を持った隣の寝太郎型の桃太郎**も多い。鬼退治にしても鬼を海中に投げ宝物をとって帰ったり、鬼に酒を飲ませて退治したりする
- ・香川県高松市鬼無町では**桃太郎が女の子**だった、とする話がある。おばあさんが川から持ち帰った桃を食べ、若返ったおじいさんとおばあさんに子どもができ、男の子のように元気のいい女の子が生まれる。そして、あまりに可愛いので**鬼にさらわれないうち桃太郎と名づけ育てた**。
- ・岩手県紫波郡には母親の腰近くに転がってきた桃を拾って帰り、綿に包み**寝床に置いておいたら桃が割れ子供が生まれた桃の子太郎**という伝承や、
- ・越後、佐渡（現・新潟県）の「桃太郎」では桃の代わりに**香箱が流れてきた**とあり、この香箱は**陰部の隠語**でもあるという。
- ・岩手県の別の語りでは、桃太郎は父母が花見に行った時に拾った桃から誕生。地獄の鬼から日本一の黍団子を持って来いと命じられ、地獄へ行き鬼が団子を食べているときに地獄のお姫様を救う。婚姻譚（**人間と人間以外のものとの婚姻**）を伴う桃太郎である。
- ・福島県の桃太郎も**山向こうの娘を嫁にする**話。
- ・高知県では、きび団子の代わりに粟・稗の団子の設定がある、黍より高級品かも
- ・愛媛県・広島県では、お供も猿・犬・雉ではなく**石臼・針・馬の糞・百足・蜂・蟹**など。
- ・東京北多摩（現・東京都多摩地域北部）地方には**蟹・臼・蜂・糞・卵・水桶**等を家来にする話があり、これは明らかに猿蟹合戦の変型とする見方もある。
- ・山梨県大月市には「岩殿山（九鬼山という説もある）に住む鬼が里山の住民を苦しめていた」「百蔵山には桃の木が生い茂り、そこから川に落ちた桃をおばあさんが拾い持ち帰った」「上野原市の犬目で犬、鳥沢でキジ、猿橋でサルを拾った」等のいわゆる「**大月桃太郎伝説**」が存在する。
- ・南西諸島の沖永良部島（鹿児島県大島郡）では「桃太郎」は「ニラの島」へ行ったという。龍宮である**ニラの島で島民はみな鬼に食われていた**が、唯一の生存者の老人の家に羽釜があり、そのふたの裏に鬼の島への道しるべが書かれており、その道しるべどおり地下の鬼の島へ行き、鬼退治に行く筋書きである。
- ・沖縄県宮古島の古謡「仲宗根豊見親八重山入の時のあやご」では、1500年のオヤケアカハチの乱に参戦した豪族の一人に**桃多良（むむたら一）**の名があり、この時期までの沖縄への桃太郎伝承の伝播の可能性が論議されている。

2 鬼の種類一覧表 日本の伝説の鬼は44種類

日本の伝説、民話や郷土信仰によく登場する鬼ですが、日本各地に伝わる伝承によって様々な種類の鬼がいることがわかります。

頭に二本、もしくは一本の角が生え、**頭髪は細かくちぢれ**、口に**牙が生え**、指に**鋭い爪**があり、**虎の皮のふんどしや腰布**をつけていて、表面に突起のある**金棒を持った大男**の姿が一般的に想像できる鬼ではないでしょうか？

「赤鬼」「青鬼」「黒鬼」などの色がついた鬼もよく知られていますが、伝承ではもっとたくさんの種類の鬼が登場します。

3 奇想天外

結論として、**鬼は空想の心**であり、古からの田舎の**嫁問題**や**跡継ぎ婿の問題**の世継ぎの苦勞から嫁探し、子づくりを論じて、子供の成長と裕福な生活を求めたお話し、かもしれない。

それにしても、**乱暴な子づくり方法**と**略奪的な収入源**での**幸せ生活**を得たとみる。 完